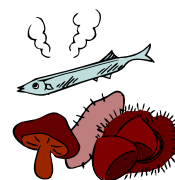


# BPT (バイオマスプロジェクトチーム)だより No.35

<http://www.pref.chiba.lg.jp/svozoku/e/ichihai/bio/biotop.htm>



平成19年10月1日(月)  
バイオマスプロジェクトチーム  
(環境生活部資源循環推進課)

## 1. 事業の進捗状況等

### ○バイオマス庁内連絡会議幹事会の開催

9月20日、バイオマス庁内連絡会議幹事会を開催しました。

当チームからバイオマス利活用の取組状況やバイオエタノールの情勢について説明した後、県としてのバイオエタノールの推進の方向性をまとめるための検討組織について協議しました。



バイオマス庁内連絡会議幹事会

### ○環境先進国ドイツのバイオマス最新レポート(その4)

#### ー “ヨーロッパ最大のバイオマス利用国” となったドイツのバイオディーゼル事情①ー

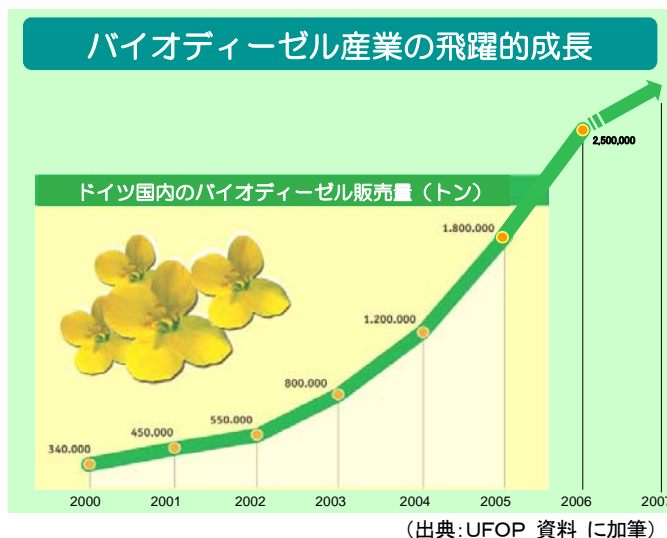
ドイツでは、バイオディーゼル燃料市場が急成長(約250万トン/年(2006))しています。その背景には地球温暖化対策としての再生可能エネルギーの確保や1990年代後半の石油危機に始まった「燃料自給率の向上」という国家的な課題があり、国内で栽培されていた菜種をもっと“ポジティブ”に活用できないかという考えのもとで、菜種油を原料に使う国産バイオ燃料政策と農業政策を連携させた取組みがスタートしました。

ドイツの燃料用菜種の作付面積は、約156万ヘクタール(2006)を超える規模に拡大しており、これは国内作付面積の約13%となる規模であり、いまや“菜種”はドイツの主要作物の一員と言えるまでになりました。

ドイツの農家が燃料用菜種の作付けを拡大させた大きな理由は、やはり収入の増加です。菜種生産による農家の純益は、約250ユーロ(約4万1千円)/haと推計されており、その他にも休耕地補償やエネルギー作物への補助による収入も加算されるなど手厚い助成制度があったことが、農家への大きなインセンティブとなりました。

このようにドイツ全土で展開された菜種生産振興施策とバイオ燃料税制優遇制度(免税措置)によって、ドイツ全土でバイオディーゼル産業が急成長しました。

### バイオディーゼル産業の飛躍的成長



(バイオ燃料政策の方針転換)

ところが、連邦政府はこれまで続けてきた税制優遇制度の方針転換を決定しており、2006年8月からバイオディーゼル（100%）に対する段階的な課税が始まっています。

ドイツも日本と同様に、バイオディーゼルの生産コストは軽油よりも高いことから、税制優遇制度によって、その市場を急速に拡大することができました。しかし、2年後には増税によってバイオディーゼルの小売価格が軽油よりも高くなることが予測されており、国内のバイオディーゼル市場が急速に縮小していくことが危惧されています。

では、ドイツはバイオディーゼル最盛期に、なぜ政策を転換するのでしょうか？

次号は、バイオディーゼル政策の課題とドイツ菜種農業の展望についてお伝えします。

## 2. 普及啓発活動

### ○エコメッセ2007 in ちば

9月9日、幕張メッセ国際会議場にて、第12回目のエコメッセが開催されました。

当チームは昨年につきブースを出展し、バイオマスプラスチック製品の展示とアンケートを実施しました。

約7100名の来場があり、環境問題への意識の高まりを感じました。



「エコメッセ2007 in ちば」でのブース



空の日イベントでのブース

### ○空の日

9月17日、「空の日」成田地区実行委員会の主催によるイベントが成田空港中央広場にて行われ、NPO法人バイオランド芝山のバイオマスプラスチックの普及啓発活動にバイオマスプロジェクトチームも協力しました。

### ○千葉県生涯大学校での講義

9月11日と16日、千葉県生涯大学校京葉学園にて、資源循環型社会（ゴミ・リサイクル）の講義種目のうち、当チームからバイオマスについて講義を行いました。

両日合わせて100名以上の参加があり、熱心に聴いていただきました。



千葉県生涯大学校京葉学園での講義